

修士論文要旨

学籍番号 20GH301 第 号

氏名 陳 碩

専攻 (コース: 政策科学)

論文題目

二重異質性モデルを用いた国際貿易の経済分析

現代社会では自由貿易は国へ巨大な富をもたらすと思われる。過去の Melitz (2003)、Helpman(2004)をはじめ新貿易理論に関する研究は自由貿易により増加される産業の異質性は僅かな輸出企業の輸出額を増加させることの研究を通じ、自由貿易の重要性を明らかに説明している。しかし、近年に、世界から生じる一連の保護貿易行為は自由貿易主義から保護貿易主義への回帰が見られる。

だから、なぜ自由貿易行為だけを行うことは国と企業の利益を最大化させないか、および産業の特徴と国の特徴によって自由・保護貿易を行うべきかという問題を研究する必要がある。

新貿易理論は国際貿易の分野で自由貿易を研究する重要な手段の一つであるが、過去の Melitz (2003)に基づくモデルだけに頼り、今回の問題を研究することが足りない。貿易に影響を与えるほかの要因を考える必要がある。本論文では、Kugler & Verhoogen (2011)のモデルを含める Bernard et al. (2016)による二重異質性モデルを用いると問題を明らかにすることを目指す。

研究は主に2つの部分に分け、第一部分は理論分析であり、第二部分は実証分析である。

理論分析では、国の特徴とする労働者の能力が企業レベルの輸出額と国レベルの輸出額に与える影響を明らかにする。さらに、この影響が変化する過程を通じ、自由貿易が企業と国により生じる影響を明らかに説明する。理論分析部分の結論として主に二つの結論が得る。一つの結論は財の代替の弾力性が相対的に低い産業である場合に、自由貿易により生じる企業の生産性の異質性程度の減少を通じて一定程度に労働者の能力と企業の輸出額との関係に負の影響を与え、財の代替の弾力性が相対的に高い産業である場合に、自由貿易により生じる企業の生産性の異質性程度の減少を通じて企業の輸出額へ正の影響を与えることである。このような影響はある企業が国際貿易の競争から負けさせる可能性が存在する。もう一つの結論は、国レベルの輸出の場合に、労働者の能力がどれだけ財の品質へ転換できることと財の代替の弾力は重要である。労働者の能力が財の品質への転換率が相対的に大きく、財の代替の弾力も相対的に大きい場合に、国の労働者の能力が高ければ、自由貿易により国レベルの輸出額が大きくなる。転換率が相対的に小さく、財の代替の弾力も相対的に小さい場合に、自由貿易は国の労働者の能力が高ければ、国レベルの輸出額へ負の影響が大きい。

実証分析では、国の教育水準で労働者の能力を表し、理論部分のモデルを用いて、第一次産業、第二次産業と第三次産業のデータを通じて分析する。分析により、第一次産業、第二次産業の企業では、自由貿易は国の教育水準と企業の輸出額との関係に正の効果があり、第三次産業では、自由貿易は国の教育水準と企業の輸出額との関係に負の影響を与える。そして、第三次産業の国レベルの輸出では、自由貿易は、国の教育水準と国の輸出額との関係に負の影響を与える。

本研究により、自由貿易から生じる効果は国と産業の違いにより、企業と国の輸出額に与える影響は違う。国々の政府が単純的に自由貿易を唱えることは正しいことではない。自身の特徴と産業の特徴により、自由・保護貿易行為を行うほうが良いと考えられる。